

石川県七尾美術館だより

No.108

令和4年 冬

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



九・谷・集・合 黒・色・舞・踊

12月18日(土)～令和4年2月13日(日)【開催中】

「九・谷・集・合」(第1展示室)

「九谷焼」は約360年もの歴史と伝統を持つ、石川県を代表するやきもの。江戸時代前期、加賀国大聖寺(石川県加賀市)で制作された「古九谷」を起源とし、幕末期に主に加賀国の各窯で生産された「再興九谷」や明治時代からの「近代九谷」を経て現代に至ります。

その様式は、主に紫・緑・黄の色釉をダイナミックに用いた「青手」、その3色に紺青・赤を加えた5色の色釉をフル活用する「五彩手」、赤の細密描写を基本に金彩を加える「赤絵(金欄手)」の3スタイル。「青手」の大胆なデザインや「五彩手」の瀟洒な上絵、「赤絵」の精緻な意匠などにより、高い評価を受けています。



「色絵山水図四方形小皿 古九谷」
(池田コレクション)

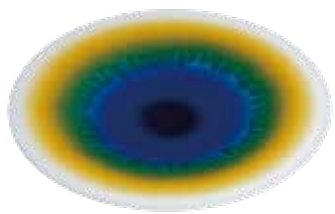


「色絵布袋山水人物図硯箱」
初代徳田八十吉 (池田コレクション)

七尾市出身の実業家・池田丈夫氏(1907～87)が蒐集した、当館所蔵品の中核「池田コレクション」には、九谷焼も多く含まれています。そこで本テーマでは、同コレクションを中心に各種の九谷焼計36点を紹介しています。



「色絵龍桐文木瓜形平卓 粟生屋窯」
粟生屋源右衛門 (池田コレクション)



「耀彩鉢『心円』」 三代徳田八十吉

「黒・色・舞・踊」(第2展示室)

「黒色」は白色や灰色と同じ無彩色に属し、全ての光を吸収・遮断する性質を持ちます。色のイメージとしては、主なところで「未知」「神秘」「高級」、そして「強さ」「権威」など、総じてミステリアスで重厚な印象。

その一方で、ほかの色に比べて「負」を連想させる特徴も目立ちます。「暗黒時代」や「ブラック企業」など、マイナス視点で例えられること

も多いですが、それだけ黒色が多様性を持つ魅力あふれる色ゆえといえるでしょう。それだけに水墨画や書、漆、写真などでみられるように、美術工芸においても黒色に重きを置いたジャンルはたくさんあります。本テーマでは、所蔵品より「黒色」が効果的に使用されている作品33点を絵画や書、工芸や写真など幅広いジャンルで展示しています。

「黒色」が放つ、無限に広がる深淵世界を心ゆくまでご堪能ください。



「無題」 白尾勇次



「根来足付盥」
(池田コレクション)



「黒楽茶碗 銘福笑」
樂 惺入 (池田コレクション)



「萬歳」 富岡鉄斎
(池田コレクション)

◇共通観覧料

大高生	一般	個人	団体
2800円	3500円	2800円	2200円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

織部と唐津 旅の目的地

令和4年2月26日(土)～4月17日(日)

2つのテーマを設け、所蔵品より約60点を紹介いたします。

「織部と唐津」(第1展示室)

石川県を代表するやきもの「九谷焼」を紹介する展覧会「九・谷・集・合」に続き、「織部と唐津」と銘打って、当館所蔵品の中核「池田コレクション」より「織部焼」と「唐津焼」をセレクトし、約30点を紹介します。

「織部焼」は、桃山時代より美濃地方で作られた始めた「美濃焼」の一種で、大きく歪んだ器の姿や幾何学的な文様など、造形面での自由闊達さに大きな特徴があります。その名前の由来は、当時の武将・茶人、古田織部(1544～1615)好みの意匠であるからとされています。



「織部菊図折込鉢」
(池田コレクション)



「織部沓形茶碗」
(池田コレクション)



「唐津鳥形香合」(池田コレクション)

一方、「唐津焼」は1580年代に肥前国(現・佐賀県、長崎県)で創始されたやきもので、この地の豪族・波多氏が朝鮮から陶工を連れてきて開窯したのが始まりとされています。その独特の風合いは茶人たちに好まれ、彼らの好みの格付けとして、俗に「一楽二萩三唐津」と称されるほどでした。

いずれも桃山時代を代表するやきものといえるでしょう。時代の美意識を映し出した、桃山陶の世界をぜひお楽しみください。

「旅の目的地」(第2展示室)

画家はしばしば、自身が描く題材を求めて「旅」に出かけました。向かった場所は、いわゆる名所や大都市と呼ばれる所から、名前の知られていない小さな街や通りまで様々です。画家たちはそこで四季折々に変化する自然の姿を見つめたり、現地の人々の暮らしの息づかいを感じたりし、自身の創作の糧としました。

本展では、日本・海外問わず、画家たちが旅をし、見つめた風景を描いた絵画約30点を紹介します。コロナ禍で「旅」をする機会が減っている状況ではありますが、世界の様々な風景を鑑賞することで、画家たちとともに「旅」をした気分になってみてはいかがでしょうか。



「In New York City Soho」戸潤幸夫



「マテーラの展望」田辺栄次郎



「絶域涛声」水道秋聖



「舞台」山本隆

◇共通観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

2021イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 開催実施報告

11月6日(土)から始まりました「ボローニャ展」も12月12日(日)をもって、無事に閉幕いたしました。会期中無休、37日間の開催で、4000人を超えるお客様にご来館いただき、誠にありがとうございました。

例年ですと、開会式での地元の幼稚園・保育園の園児さんによる楽しい発表から幕を開けるのですが、コロナ禍により開会式は2年続けて中止となりました。

いつもよりは静かなスタートでしたが、初日から、毎年展覧会を楽しみにしてくださる方や親子連れなど、多くの方々が楽しんで見られる姿が見られました。また、学校団体の予約も多く入り、子どもたちは思い思いに自分のお気に入りの絵を見つけていたようでした。



「かんたん絵本を作ろうよ!」



「のまりんの紙芝居劇場」



「おはなし劇場」

昨年やむなく中止となった関連イベント「のまりんの紙芝居劇場」と「おはなし劇場」を、今年は人数制限を設けながらではありますが開催することができ、恒例の「かんたん絵本を作ろうよ!」とともに、ほぼすべての回が定員いっぱいになり、盛況のうちに終わることができました。ご協力いただきました野間成之さま、NPO法人ぼっかばかの皆さま、絵本の会もこの皆さま、本当にありがとうございました。

開会式の中止、関連イベントの入場制限や絵本コーナーの絵本を自由に手に取って読んでいただくことができないなど、コロナ禍での展覧会開催でしたが、ご理解・ご協力くださり、改めて御礼申し上げます。来年こそは制限もなく、賑やかな開会式から幕を開けられることを願っております。

ティールームからの お知らせ



11月6日よりティールームの営業を再開しました。営業時間は13時から16時30分(ラストオーダー 16時)と時短営業となっております。席数は9席で、メニューは飲み物のみです。

店内の様子です。
椅子と椅子の間を
広くして
ゆったりと。



当館友の会会員証ご提示で
レジにて10%割引になります。

館長就任あいさつ

この度、令和3年11月1日付で石川県七尾美術館の館長に就任いたしました北春千代でございます。



石川県立美術館から石川県立歴史博物館へと移り、駆け出しの頃からはや半世紀を過ぎました。その間、多くの方々に助けられ、今日まで歩んでこられましたこと、ただただ感謝の念でいっぱいです。

さて、この石川県七尾美術館は平成7年の開館以来、数多くの展覧会や芸術文化活動を通じ、広く市民の方々に親しまれてきました。

長谷川等伯とその一門、池田コレクシオンや石川県ゆかりの作家作品など、その一つ一つが深くかけがえのないものであり、館長就任にあたり重責を実感しております。

七尾、能登の魅力を中心に掘り起こし、より一層それぞれの持つ魅力やエネルギーを、世界に向けて発信できればと思っております。

まだまだコロナ禍ではありますが、一人でも多くの方々をこの地に呼び込み、地域の活性化に少しでも役立てるよう、微力ではございますが努力してまいりますので、何卒ご支援ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

新学芸員紹介

令和3年4月より、七尾美術館の学芸員として勤務しております、河野喬紀（こうのたかのり）と申します。出身は山梨県。大学・大学院では長谷川等伯の研究をしていました。

骨董好きの父の影響で、小学生の頃から古いものに興味があり、県内外の博物館や寺院によく連れて行ってもらいました。等伯との出会いは小学5年生。東京国立博物館で「松林図屏風」を見たときの衝撃は忘れられません。周りを山に囲まれた地で育った少年には馴染みのない風景でありながら、ある種の共感を覚えたのです。それから十数年、まさか等伯の出身地にある美術館で働くことになるとは…。

今年の担当は「ポローニャ展」と「織部と唐津／旅の目的地」展。前者は今まで学んできた分野からは遠い絵本原画の展示ですが、可愛いだけでなく、社会的メッセージが込められている、技法の自由さであったり：絵本の世界の自由さと豊かさに驚かされました。

趣味は推理小説を読むこととマジック。どうやら謎が好きなようです。等伯のこと、七尾や能登のこと：興味を幅広く持つて、謎を解き明かすように1つ1つ知っていきたくたいです。何卒よろしくお願いたします。



所蔵品紹介

「市場」村田省蔵 昭和48年（1973）

銀山の街として知られるメキシコ・タスコの市場の様子を描いた作品です。

作者の村田省蔵（1929～2018）は金沢市出身の洋画家で、小糸源太郎に師事し、光風会や日展で活躍しました。特に日本の四季折々に変化する豊かな自然風景を主要テーマとし、北陸地方の農村に見られる稲架木を描いたシリーズはその代表作です。

本作が描かれた当時、制作が思うように進まなかった村田は、色彩を探索するためにしばしば海外を旅し、各地の街並みを描いていました。タスコは一日中マリアッチ（メキシコの音楽・楽団）の陽気な音が聞こえるような場所です。画面を見ると色彩は明るく、まさにその土地の風土を表しているといえるでしょう。

なお、本作は2月26日（土）から始まる「旅の目的地」で展示いたします。作家が「旅」を通して見つけた風景をぜひご覧ください。



「市場」村田省蔵

長谷川等伯展

「水墨・濃淡の妙 VS 着色・彩りの美」

平成8年から毎年シリーズで開催している「長谷川等伯展」。第27回目となる令和4年は、展示室ごとに水墨画と着色画の魅力をそれぞれ紹介します。

長谷川等伯は様々な技法を試みました。墨の濃淡による表現などは、若き信春時代から晩年の等伯時代への学びの中で、飛躍的な展開を見せていきます。一方、着色画では、能登時代に豊かな色彩による仏画を多く描いたことが、後の等伯時代における大画面の着色画成功へと繋がっていくのです。

本展では、『水墨・濃淡の妙』『着色・彩りの美』に、『長谷川派の着色・金碧画』を加えた3つのテーマで、「複製松林図屏風」を含めた18点を展覧します。等伯作品2点と長谷川派作品1点は当館初公開となります。

次号では、さらに出品作品の紹介や催し情報も掲載しますの
で、お楽しみに！



「四季柳図屏風」6曲1双(内右隻)長谷川等伯筆 個人蔵

画像は、四季の柳樹を描いた屏風の右隻。右下方には、胡粉を盛り上げ金泥を施した柴垣を描く。金箔地の余白を効果的に使った、揺れる緑の葉がなんとも叙情的です。当館初公開！

令和4年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。
現在、会員の方で更新をご希望される方は改めてお申込みください。
お申込みのない場合はそのまま退会となってしまいますのでご注意ください。

●入会手続き

受付開始 3月1日(火)から【年度会費1,000円】※1

受付場所 ①当館受付カウンター ②郵便振替 ※2 (郵便振替用紙をご利用ください)

※1 会員証は美術館日より第109号(春号・令和4年4月1日発行予定)と一緒に送ります。

※2 郵便振替用紙の通信欄に必要事項《会員の区別(更新・新規・元会員)・郵便番号・住所・電話番号・氏名》をご記入のうえ、会費を添えて最寄りの郵便局窓口へお出しください。払込手数料は申込者負担となります。

【郵便振替口座番号 00710-0-50795 加入者名：石川県七尾美術館 友の会】

●友の会特典

- 1 「美術館日より」をお送りします。(年度内4回発行)
- 2 当館及び石川県能登島ガラス美術館主催の展覧会の観覧料が割引になります。(会員本人と同伴者2名まで)
- 3 相互割引提携館主催の展覧会観覧料が割引になります。(会員本人のみ)
- 4 当館主催特別企画展の開会式・内覧会(一部除く)にご招待します。(無料)
- 5 販売グッズが割引になります。(一部除く)
- 6 喫茶室利用代金が10%割引になります。(10円未満切捨)
- 7 研修旅行や美術講座に参加できます。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、特典変更や中止となる場合がありますのでご了承ください。

※一旦納入された会費はお返しできませんのでご了承ください。



令和4年度 石川県七尾美術館
友の会会員証

「虎鷹図衝立」多田宅兵衛 当館蔵

石川県七尾美術館だより No.108

発行日：令和4年1月1日

発行者：公益財団法人七尾美術財団

〒926-0855 七尾市小丸山台一丁目1番地

TEL.0767-53-1500 FAX.0767-53-6262

<https://nanao-art-museum.jp>

表紙



「雪景山水図屏風」(左隻) 佐々木泉景(1773~1848)
天保8年(1837)制作 ※「黒・色・舞・踊」展より

屏風の画面に展開する冬景色。雪に覆われた雄大な自然景観の中に楼閣や舟などが溶け込んでいます。モノトーンで表された世界は静寂に満ち、しわぶきひとつ聞こえないようです。

作者の佐々木泉景は江戸時代後期に活躍した「狩野派」の画家。現在の石川県加賀市出身で、加賀藩の御用絵師をつとめて数多くの作品を描きました。(展示は左隻のみ)